

鈴木 滉生

- ・3月11日2時46分地震発生。僕はいつもと変わらず小学校の理科室で先生と同じクラスの仲間と理科の実験をしていました。地震発生直後いつもの地震とは違う揺れを感じました。激しい揺れとただならぬ地鳴りが聞こえ、ガラスの割れる音や人の叫び声が聞こえないほどでした。
- ・学校の外に出ると地域の人々が慌てて避難してきました。この時、海を見ると真っ黒で何が起きているかわかりませんでした。
- ・この夜は学校で過ごしました。余震が何度も何度も起きて、一睡もできませんでした。避難していた父と一緒にいましたが、言葉を交わすことがなく、家族の誰かが見つからないのか気になっていました。
- ・発生から3日後、母が避難所に迎えに来てくれて、自宅に帰るとホッとしました。自宅が被害にあっていなかったこともあり、避難所になりました。地域の人との共同生活が始まり、協力しながら生活していました。今でもこの人たちとは友人のように親しい中です。
- ・今では地震は起きてほしくはありませんでしたが、長い人生で考えるといい経験だったと思います。自分たちが経験したことを多くの人に伝えることで、二度と多くの人々が苦しまないようにしたいと思います。また、中学生として直接、地域に勇気を与えられるようにソーランを一生懸命に踊りたいと思います。